

# 令和5年度（2023年度）総務常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和5年（2023年）8月31日（木）
- 2 視察者 総務常任委員会（8名）  
岩本浩治（委員長）、南部隼平（副委員長）、溝口幸治、高木健次、緒方勇二、西山宗孝、幸村香代子、立山大二郎

## 3 視察の概要

### (1) 南阿蘇鉄道

南阿蘇鉄道は、旧国鉄高森線から第三セクター「南阿蘇鉄道」として誕生し、地元の公共交通機関として通学や通勤に利用されている。平成28年熊本地震により甚大な被害を受け、一時は全線運休となったが、令和5年7月15日に全線での運行を再開した。



今回の視察では、立野駅、犀角山トンネル跡地（第一白川橋梁）、高森駅を見学し、南阿蘇鉄道の被災から現在までの歩み、施設の復旧、再開発の取組について説明を受けた。

同社からは、建て替えが行われた立野駅や高森駅の駅舎は本年春から供用が開始されており、また、全線での運行再開から1日2本のJR豊肥線肥後大津駅までの乗り入れが始まっているとの説明があった。

### (2) 熊本地震震災ミュージアム「K I O K U」

熊本地震震災ミュージアム「K I O K U」は、熊本地震震災ミュージアムの中核拠点として、展示やシアター、震災遺構、各種プログラムを通して、熊本地震の被災の様子や発生メカニズム、防災について学び、人と自然との共生のあり方について考えてもらうための体験・展示施設として、旧東海大学阿蘇キャンパス内に整備され、令和5年7月15日から一般公開されている。



今回の視察では、施設を見学し、展示内容や企画意図等について説明を受けた。

同所からは、展示施設は3つの展示室で構成され、震災遺物や関連資料

の展示、当時を振り返る映像の放映、各種プログラムなどが提供されている、また、震災遺構エリアでは、地震で被害を受けた建物と断層を一体的に保存しているとの説明があった。

### (3) 震災伝承館 轍

震災伝承館 轍は、熊本地震における被災の記憶や経験を後世に伝えるため、旧長陽西部小学校の施設を改修し、令和4年4月に正式にオープンした。

今回の視察では、施設を見学し、震災伝承館 轍が伝える被災から現在までの歩み等について説明を受けた。

同所からは、熊本地震の概要や南阿蘇村全体の被害状況をはじめ、地震から現在までの復興の様子、「学生村」と呼ばれた東海大学生と地域住民のつながりなどを6つのゾーンに分けてわかりやすく伝えているとの説明があった。



### (4) アイデアITカレッジ阿蘇

アイデアITカレッジ阿蘇は、令和3年3月に南阿蘇村長陽エリアに開校した専修学校で、ITビジネス学科と国際ビジネス学科があり、地元の企業等のニーズに応じてカリキュラムを組む「注文式教育」を導入している。

今回の視察では、施設を見学し、同校の学校運営の特色について説明を受けた。

同校からは、「注文式教育」では約50社から講師の派遣があり、いち早く業界最先端の知識を得られるメリットがあるとの説明があった。

